No. 7

（行政視察・政務活動・議員研修）報告書

平成 30 年 11 月 28 日

白石市議会議長　志村　新一郎　殿

議員氏名　平　間　知　一

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期　　間	平成 30 年 11 月 13 日（ 火 ）～ 11月 14 日（ 水 ）
調査・研修先	厚生文教常任委員会行政視察
調査事項 （研修事項）	Ⅰ、ＩＣＴ技術を活用したプログラミング教育等の取り組みについて Ⅱ、“健康・予防日本一のまち藤枝”づくりに向けた「ふじえだプロジェクト」について
対応者・講師等	Ⅰ、一宮市教育委員会教育文化部学校教育課 Ⅱ、藤枝市健康福祉部健やか推進局健康企画課
愛知県一宮市	Ⅰ、一宮市の概要 ①、面積は 113,82 ㎢ ②、人口は 2018 年 4 月 1 日現在 385,777 人 ③、学校の数は小学校４２校（児童数 21,675 人）、中学校 19 校（児童数 10,855 人） ④、一宮市学校教育推進プランには、未来に生きる力育成プランの実現のための施策として、情報教育に関する活動にプログラミング教育があります。 Ⅱ、教育の情報化について ①、教育の情報化が目指すもの ア）情報教育→教育活用能力の育成 イ）教科指導におけるＩＣＴ活用→分かりやすく深まる授業の実現 ウ）校務の情報化→校務支援システム導入による効率的な校務の遂行 ②、情報活用能力の育成（取組例） ア）情報活用の実践力→ＩＣＴの基本的な操作、情報の収集・整理・発信 イ）情報の科学的な理解→プログラミング（コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みの理解） ウ）情報社会に参画する態度→情報モラル

白石市議会
30.11.28

③、学校におけるＩＣＴ環境整備について

ア）教育のＩＣＴ化に向けた環境整備５か年計画

「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなど情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されるとともに、小学校においてはプログラミン教育が必修化されるなど、今後の学習活動において、積極的にＩＣＴを活用することが想定される。

イ）2018年度以降の学校におけるＩＣＴ環境の整備方針で目標とされている水準

・学習者用コンピュータ→３クラスに１クラス分程度整備

・指導者用コンピュータ→授業を担任する教師一人１台

・大型掲示板装置・実物投影機→100%整備

（各普通教室１台、特別教室用として６台）

・超高速インタネット及び無線ＬＡＮ→100%整備

・統合型校務支援システム→100%整備

・ＩＣＴ支援員→4校に１人配置

Ⅲ、ＩＣＴを活用した教育について

①、一宮市小中学校のＩＣＴ環境整備

ア）平成16年度より教育ネットワーク

イ）学校現場には校務用パソコンが教職員一人一台配備。普通教室には実物投影機（ＯＨＣ）、プロジェクタ教育用ＰＣ，デジタル教科書。パソコン室には40台の児童・生徒用ノート型ＰＣ

②、小学校での情報教育（総合的な学習）

ア）1・2年生は年間5時間程度お絵かきソフトの利用など

イ）3・4年生は年間5時間程度ワープロソフトの利用など

ウ）5・6年は年間10時間程度ワープロソフトやプレゼンテーションソフトの利用など

エ）全学年は年間2時間程度情報モラル教育

③、中学校での情報教育（3年生技術科）

ア）1年生はコンピュータと情報通信ネットワーク（年間4時間）

イ）3年生は年間18時間デジタル作品・製作（9時間）、プログラムによる計測・制御（7時間）、情報に関する技術の評価・活用

④、教員のＩＣＴ活用研修（平成29年度）

ア）初任者研修

・実物投影機やデジタル教科書の活用

イ）夏季集中研修（希望者）
・プレゼンテーションの活用法
・表計算ソフト活用法
・情報モラル
・プログラミング教育
ウ）冬季研修（希望者）
・研究校に学ぶプログラミング教育

Ⅳ、プログラミン教育について
①、平成28・29年度に一宮市独自の研究指定を受け、小学校2校、中学校1校にタブレット（各校10台）を配置して実施。平成30・31年度も新たに指定を受ける。
②、平成28・29年度に文部科学省から、小学校1校が研究指定を受ける。
③、ペッパー社会貢献プログラムスクールチャレンジ
ペッパーを活用し、小中学校（27校）でプログラミング教育を実施
ア）スクールチャレンジは2017年4月にスタートし、Pepperが学校現場で活用されている。文部科学省が2017年3月に公示した新学習指導要領にて、2020年から小学校でのプログラミング教育の必修化が盛り込まれる。
イ）本プログラムは、プログラミング教育を2020年に先がけていち早く取り組み、AI（人工知能）、スマートロボット、IoTが普及する時代に生きる子どもたちの論理的思考力や問題解決力、創造力などの育成に貢献することを目的としている。
ウ）ソフトバンクグループ株式会社が本プログラムにご応募いただいた団体に対し、プログラミング教育などの教材としてPepper本体、指導書などを3年間貸し出しする。
④、わくわくプログラミング教室
市の主催で小学5・6年生を対象とした希望制のプログラミング教室を実施（午前の部30名、午後の部30名）。愛知教育大にお願いをする。

Ⅴ、情報モラル教育について
学習指導要領では、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」を情報モラルと定めている。
①、地方創生事業による情報モラル教育の早期実現（平成28年度から）

	・4か年計画で「児童生徒・保護者の情報モラル向上のための啓発活動推進校」に全小中学校を指定 ②、情報モラルリーフレットの配布 ・ネットトラブルの未然防止の配布 ③、情報モラルに関する教員研修の実施 ・夏季集中研修の中に、教職経験2～10年目の間に必ず受ける研修として位置づけている Ⅵ、感想 小学校のプログラミング教育は“プログラマーの育成が目的ではない”とのことです。 現在、児童生徒は、小さい時からゲームやスマートフォンに慣れ親しんでいます。しかも社会に出るころには仕事でも人工知能（AI）を活用することが普通になっている時代です。 身近な生活でコンピュータが使われるようになった今、子どもたちがその仕組みを知ることは大切です。与えられたものや世の中にある便利なものをただ受け身に使うのではなく、プログラミングの学習を通してコンピュータがどのように動いているのか知り、子どもたち自身が“コンピュータでモノをつくることができる”という発想を持つことが重要だと考えます。
静岡県藤枝市	Ⅰ、藤枝市の概要 ①、面積は194,06㎢ ②、人口は145,652人（平成30年9月末現在） ③、平均年齢は46,86歳 ④、高齢化率は29,0% Ⅱ、藤枝市の重点戦略 ①、暮らし基本4k（頭文字）政策 ・選ばれるまち藤枝に向けた4つの日本一（健康、教育、環境、危機管理）を目指した取り組みで、第1回健康寿命をのばそう！アワード 自治体部門優良賞受賞（平成25年3月6日）。 ・市民が元気で長生き「住んでみたい藤枝」「元気なまち藤枝」を推進 ②、健康寿命延伸都市協議会発足 受賞自治体25の市や町で先進事例研究・情報交換を行う

Ⅲ、“健康・予防日本一”ふじえだ・推進体制について

市民・事業者・行政が一体となって推進

①守る健康　　②創る健康

・発生予防　　・豊かなライフスタイル

・重症化予防　　・健康寿命の延伸

・地域保健・医療　　・ポピュレーションアプローチ

①、守る健康（藤枝市民の健康関心度）

ア）特定健康診査受診率が高い（H28　市・県：法定報告　全国：厚生労働省）

・静岡県 37,6%（全国 24 位）

・藤枝市 49,2%（静岡県内人口 10 万人以上の市 10 市中第 1 位）

イ）特定保健指導実施率

・藤枝市 51,75%

ウ）がん検診受診率が高い（H28　厚生労働省（地域保健・健康推進事業報告）

・全国 10 万人以上の 283 市中の受診率（大腸 9 位、肺 11 位、子宮 12 位、乳 21 位

エ）メタボ率が低い（H27　県・全国：厚生労働省　市：静岡県提供データ）

・静岡県 13,0%（全国 2 位）

・藤枝市 11,8%%（トップクラスの水準）

オ）後期高齢者医療の被保険者一人当たり医療費が低い

カ）「ピロリ菌胃がんリスク判定」を特定健診と同時に実施

・平成 25 年度から

キ）要介護認定率が低い（H27 年　介護保険事業報告）

・藤枝市 15,0%　静岡県 15,5%　国 17,9%

ク）市内 1,000 人体制で保健委員が活動

・平成 30 年度は保健委員活動 34 年目です

・自治会長（約 50 名）、町内会長（約 200 名）はあて職

②、創る健康　“健康・予防日本一プロジェクト”

無関心層の方への動機づけとして“楽しい”“お得”の切口から健康へ

ア）プロジェクト 1　歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」（H24、1 月スタート）

・日常のウォーキング習慣を促進

・楽しみながら、目標を持って取り組むことを支援

・東海道のほか、奥の細道、四国お遍路、北海道周遊、九州周遊コー

スなど多彩なコースを用意し継続を促進している。また、1万km完走者には表彰やインタビューをホームページに掲載して、モチベーションを維持している。(H29年度の完走者は29名です)

イ）プロジェクト2　ふじえだ健康スポット20選

（H24、9月スタート）

＊、健康を切り口に地域の宝を発掘し健康・予防の意識づけと賑わいづくりを促進

・観光とは違った視点でのシティ・プロモーション

・市内外1,200件の応募の中から選りすぐりの20箇所をマップにして紹介

・「楽」「癒」「美」「食」「鍛」に分けて特長説明や消費カロリーなどを表示

・点を線で結んだ回遊性のあるフォトラリー、ウォーキングイベントなどを開催

ウ）プロジェクト3　ふじえだ健康マイレージ

（H24、10月スタート）

＊、ふじえだマイレージとは

「ふじえだ健康マイレージ」に加え、「教育」「環境」「交通安全」に関する取り組みも応援する仕組み。

「健康」は生き生きと過ごすための健康づくりを、「教育」は学校教育から生涯学習まで幅広い学習意識の向上を、「環境」は環境に優しいライフスタイルの定着を、「交通安全」は交通事故のない安全・安心な暮らしを目指し、それぞれを楽しみながらチャレンジをして、ポイントを貯めると、協力店でさまざまなサービスを受けることができる。

＊、対象

18歳以上（基準日は毎年4月1日）で、市内に住んでいるか、通勤・通学している人

＊、取り組み内容

毎日取り組む目標を決め、目標を達成したときにポイントが貯まる。一定のポイントを貯めると、「ふじえだマイレージカード」（健康マイレージは「ふじのくに健康いきいきカード」）を手に入れることができ、協力店でさまざまなサービスを受けられる。

・2週間チャレンジで健康的な生活習慣にポイントを付与（運動、食事、休養、歯、体重計測の5項目と健(検)診、社会参加、禁煙等）

・県と協働し、ポイント還元の方法を事業所や店舗の協力を得てサービスを拠出

・店舗・事業所と協働して健康づくりを推進
・やろうと思ったその日からスタートOK
・紙版とWeb版（H25，2月スタート）かを選択できる
・Web版により若い世代に健康情報を提供

③、楽しく歩いて健康アプリ『あるくら』の開発

（平成28年10月22日）

ア）開発のねらい

健康無関心層に対し、「楽しく簡単に」健康行動の「見える化」を促し、正しい生活習慣を定着させる。→ＩＣＴの活用（スマートフォン向けアプリ）

イ）ターゲット

ＩＣＴを使い慣れている30代から50代の働き盛り世代

ウ）アプリケーションの主な機能

・健康マイレージWeb版と連結して歩数を計測・共有
・東海道、日本、世界一周を目的に健康行動を持続
・簡単にグループを設定（LINE）して仲間と競争
・歩数に応じたポイントでインセンティブ（賞品当選）

④、「賢く食べて健康」　～C級グルメグランプリ～

ア）C級グルメグランプリとは

低カロリー（Calorie）でヘルシー（C）だけど美味しい（C）をコンセプトとしたレシピクランプリ大会

イ）ねらい

これまでの「楽しく歩いて」をテーマとした“運動”に加え、「賢く食べて健康」をテーマとした“食事”の両面から健康意識を高める。

Ⅳ、次なる展開の方向性（前提条件の整理）

H28～楽しく歩いて健康　→　H29～賢く食べて健康　→　H30年～ふじえだ“まるごと”健康経営プロジェクト

①、ふじえだ“まるごと”健康経営プロジェクト

「運動」・「食」の活動の成果の向上のみならず、市全体の活力向上に繋げるため、自治体経営戦略の一環として「健康管理」を経営的視点から捉え、「地域・家庭・企業」での「こころ」と「からだ」の健康面への配慮と戦略的なマネジメントを行う「ふじえだ“まるごと”健康経営プロジェクト」を展開する。

＊、「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する経営手法のこと。企業が従業員等の健康維持増進に

取り組むことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や組織としての価値向上へつながることが期待される。

②、民間活力を導入～包括連携協定の締結～

ア）平成28年7月大塚製薬（株）と締結
健康・スポーツ施策等に関する包括連携協定

イ）平成28年11月カゴメ（株）と締結
健康・食育施策等に関する包括連携協定

ウ）平成30年10月17日　藤枝市、藤枝商工会議所、岡部町商工会、全国健康保険協会静岡支部と締結
「健康・予防日本一」に向けた健康経営に関する連携協定

・ 平成30年度は「株式会社立花ガーデン」と「藤和乾物株式会社」の2社を「健康経営実践プログラム」取組企業として選定し、従業員の生活習慣改善による主体的な健康づくりを推進。
・ 藤枝市独自では限界があるため、商工会議所の協力をいただいて、市内企業2社の従業員40名の健康維持増進（運動と食事だけでなく心と体）の変化に取り組む。来年は予算が付いたので、それに加え、血液検査も実施する予定だそうです。

V、感想

平成29年度、宮城県の特定健診の受診率は45,8%と全国2位でした。白石市の受診率は40,0%と県内の38保険者中の35位と下から3番目です。また、生活習慣病保有率は47,7%と県内で1番高い数字です。

また、白石市の1人当たりの医療費は1か月30,738円と県内では4番目に高く、医療費の4割以上が生活習慣病で占めており、生活習慣病の1人あたりの医療費は特定健診受診者に比べると、未受診者が7倍以上高い数字です。（平成29年度の国保データベースの資料）

そこで、当市においても、高齢者の増加による医療費や介護給付費の増加、及び運動不足や食生活の偏りによる生活習慣病の増加に対して、楽しみながら“健康”と“お得”をゲットできる健康づくり事業を取り入れ、生活習慣病の予防と中高齢者の活動性を高めることが必要だと考えます。

生活習慣病予防を広く市民生活に根付かせるためには、行政だけでなく市民と協働で進めることが必要であると考えます。

市民との協働により取り組みを進めるためには、白石市健康増進計画を理解し、市民目線での意見やアイデアが提案できる人材が必要であると考えます。

	その人材については、自治会からの推薦で市が依頼し、地域の健康づくり活動を担っている健康推進員が望ましいと考えます。